

【むかわ】鷓川高で、道立総合研究機構北方建築総合研究所(旭川)の研究員による防災講座が開かれ、生徒130人が津波発生時の正しい避難行動などを学んだ。

道立総合研究機構は、胆振東部地震後、むかわ町の復興計画策定などを支援している。講座は16日に開催。当初は津波発生を想定し、衛星利用測位システム(GPS)を使って避難時間や経路を調べる避難訓練を行う予定だったが、悪天候のため中止になり、研究員2人が講演した。

津波避難「早く遠くに」

北総研研究員 鷓川高で講座

このうち津波発生時の避難行動などを研究する戸松誠さんは、過去の災害で「自分だけは大丈夫」と考える「正常性バイアス」という心理が働き、避難が遅れたケースを紹介。「津波情報を待ちすぎたり過信せず、早く遠くに逃げることを意識し、避難してほしい」と生徒に呼び掛けた。

中学2年生の時に町内で胆振東部地震を経験した友井勇晴さん(15)は「1年間は津波発生時、迅速に避難行動をとれるよう、登下校時などの避難経路を確認したい」と話した。(小宮美秋)



鷓川高生に向け、津波発生時の正しい避難行動などを説明する戸松誠さん